

酷暑の夏を乗り切るために

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行令」及び「労働安全衛生法の事務所衛生基準規則」において定められた範囲は 17℃以上 28℃以下の室温の設定が好ましいということです。

私どもの高齢者施設としては現実的な数値としては20℃～28℃という所でしょう。

世の中は地球温暖化防止のために、夏は28℃スーパークールビズが国の音頭取りで実効されてきており、今では90%の企業で守られるようになってきているとのことです。

スーパークールビズを守ることは勿論ですが、しかし夏は室温だけでは解決致しません。

当一羊館で数日前にホールの温度湿度をチェックしましたら2Fは28℃、湿度64%で良好でしたが、1Fは26℃、湿度90%でした。これでは室温は低くても熱中症リスクは改善されません。空気のだよみと湿度、これへの配慮も必要でしょう。

現実的には、取り敢えずすぐ出来ることはと、エアコン設定を冷房からドライに切り替えたところ1～2時間で室温が変わらず湿度が70%近くまで改善いたしました。許容範囲まで改善したということです。

つゆが明けて1週間、酷暑の真夏は大変ですが長くは続かずもう1ヶ月もないでしょう。また高齢者はスタッフ皆さんとは違って寒がりでもあります。

室温・湿度・空気のだよみ回避などにも配慮しながら業務に当たっていきましょう。

以上です。

老人保健施設一羊館の理念
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

